

# 東アジア地域協力

02

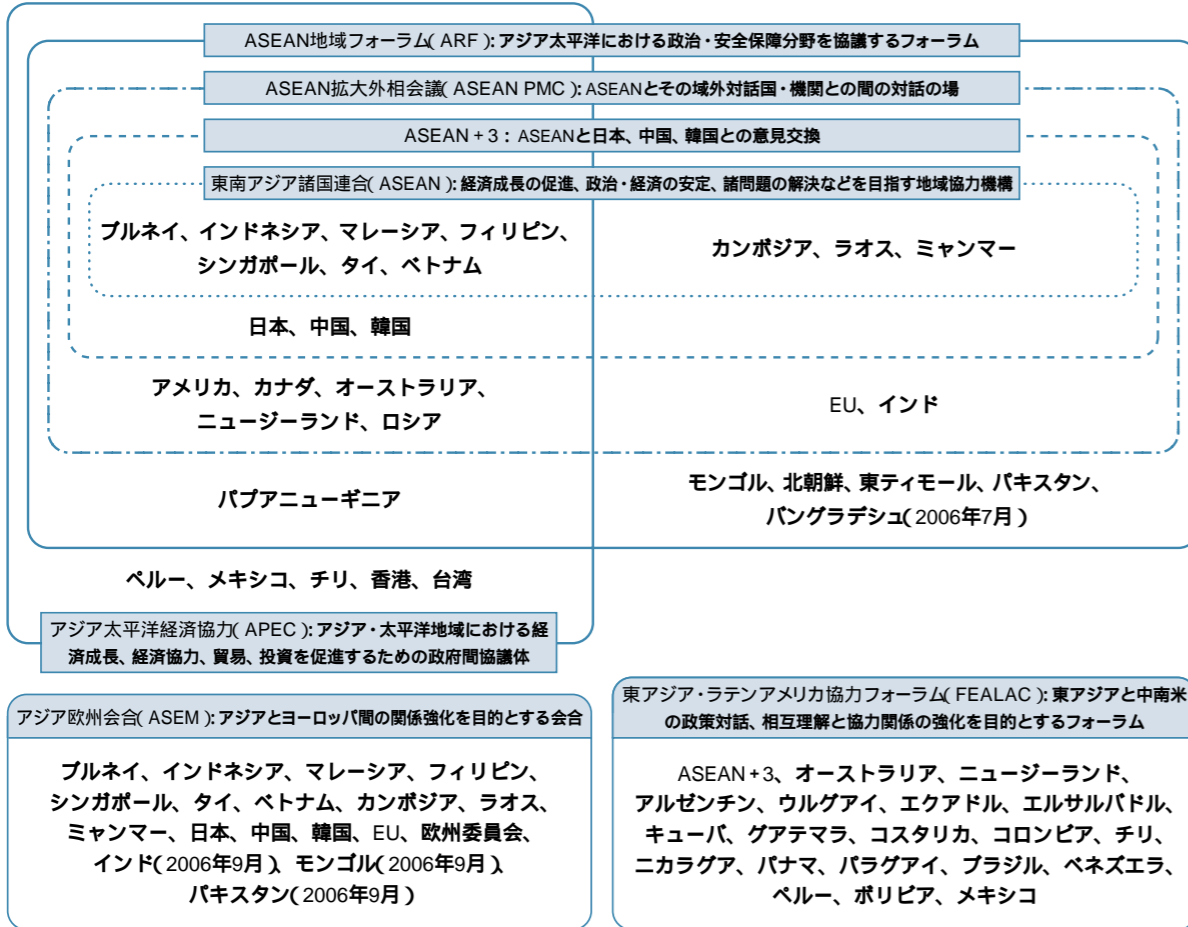


参考：谷口誠「東アジア共同体」(岩波新書)、外務省アジア大洋州局地域政策課「目で見えるASEAN」、アジア開発銀行(ADB)「Asia Economic Monitor 2005」、ほか

## B 東アジアを巡る地域協力の枠組み

DATA

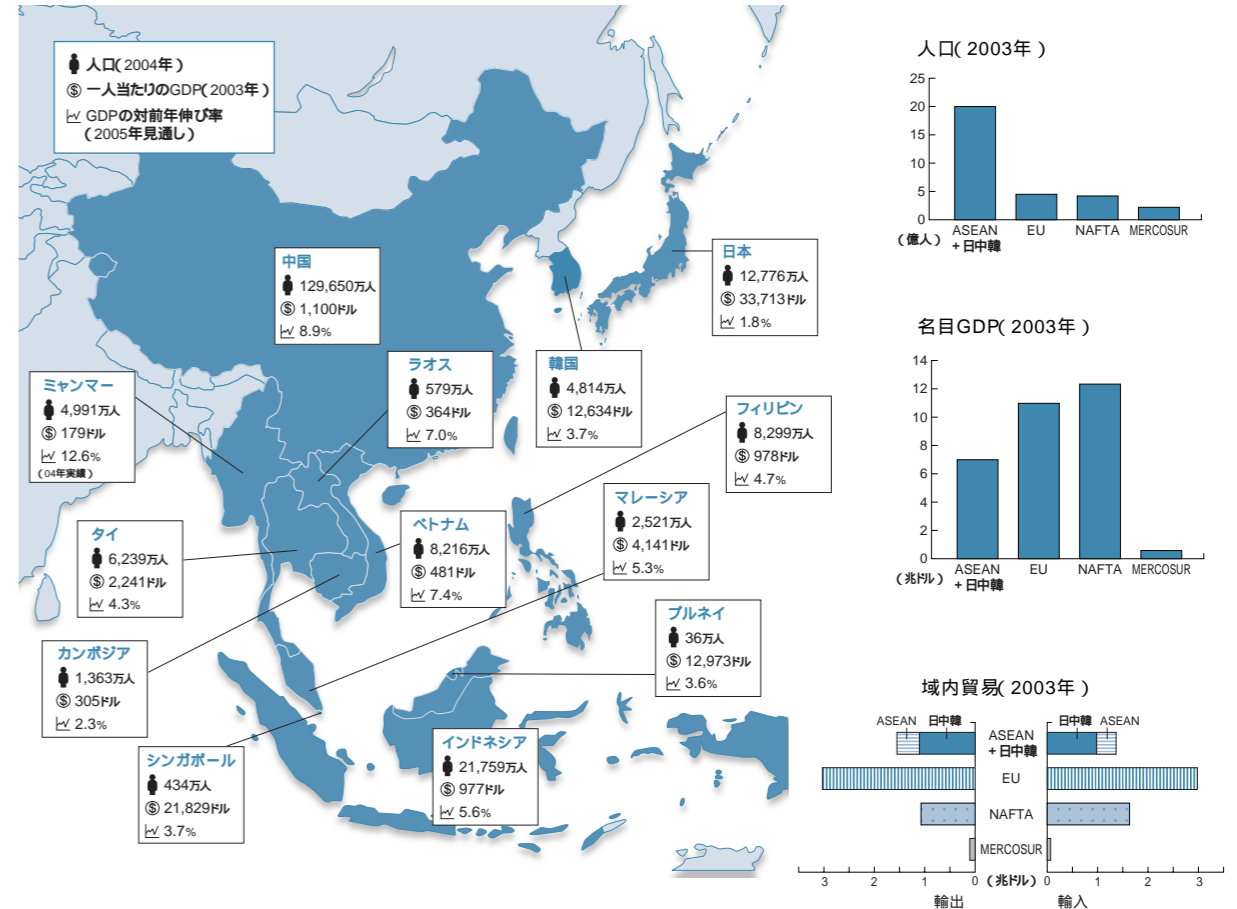
出典：外務省ウェブサイト、「世界の国一覧表2005年版」(財団法人世界の動き社)、ほか



## A 多様な東アジアの国々

DATA

出典：ASEAN Secretariat「ASEAN Statistical Yearbook 2004」、世界銀行「World Development Indicators database」、ほか



### 通貨危機と9.11が触媒

上の図は、東アジア地域を中心とした現在の地域協力の枠組みを示している。ASEANを中心に、1990年代から徐々に協力の場が広がっていった。それぞれの機構が定期的に会合を開き、地域の経済や政治、安全保障などについて意見を交わしている。

近年、世界規模で地域統合の動きが加速しているが、東アジア地域でも「東アジア共同体」構想が現実味を帯びてきた。東アジアではすでに、貿易と投資、IT、金融、開発支援、エネルギー、テロ・海賊対策、環境、

食料、防災、知的財産権などさまざまな分野で協力が進展している。

こうした結び付きの強化には、97年のアジア通貨危機と2001年の9.11同時多発テロが触媒の役割を果たしたといわれている。域内諸国が協力・交流を深め、共に問題を解決しようというわけだ。

香港と台湾を含めた東アジアの域内貿易の割合は53%(2003年)と半分を超えている。現在、域内では各国が自由貿易協定の交渉を進めており、そのネットワークはますます強くなりそうだ。

### 成長する東アジア

ASEAN諸国と日本、中国、韓国を中心とする東アジア地域の特徴は「多様性」にある。宗教、民族、文化、政治体制が異なるほか、発展段階にも大きな開きがある。一人当たりGDP(国内総生産)を見ると、日本の数値は地域で一番低いミャンマーの188倍だ。人口規模もさまざまで、中国はブルネイのなんと3,600倍。

世界の主な地域機構であるEU、NAFTA 1、MERCOSUR 2と比較すると、東アジアの人口はEUの4.4倍、NAFTAの4.8倍、MERCOSURの9倍と突出している。

GDPではEUやNAFTAにはかなわないが、中国をはじめとして高い成長を示すこの地域が、いずれ世界最大の経済圏に発展する可能性は否めない。貿易についてもほかの地域機構にひけをとらない規模で、世界貿易に占めるシェアも伸ばしつつある。域内貿易も活発で、日本の貿易の半分近くが東アジア地域(香港、台湾を含む)を相手にしている。今日の東アジアは、莫大な潜在力を秘めている地域なのだ。

1 北米自由貿易協定。アメリカ、カナダ、メキシコの3カ国が加盟。  
 2 南米南部共同市場。アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ(2006年7月)の5カ国が加盟。